

りふまぐ！

Presented by Waseda University Library Volunteer Staff “LIVS”

図書館でお気に入りのを見つけよう

2017年 春

2



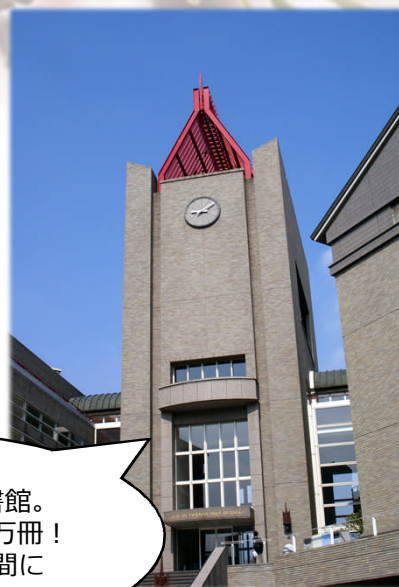
読書への招待

～本を通じて新しい世界へ～

新年度。新しいスタート。
大きく生活が変わって楽しいけれど、緊張したり、頑張ったり、疲れたり。
そんなときには、本を読んでみませんか？
LIVS学生スタッフが、それぞれの季節におすすめの本をご紹介します。
慌ただしく過ぎる日々の息抜きに。
本を通じて、いざ新しい世界へ。



知の宝庫、
早稲田大学中央図書館。
蔵書はなんと約270万冊！
大学に通っている間に
必ず利用すべし！

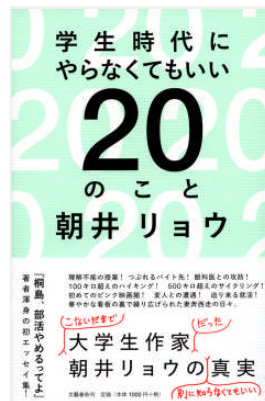


『学生時代にやらなくてもいい20のこと』（文藝春秋）

朝井リョウ

早稲田大学へようこそ！

新入生のみなさん、ご入学おめでとございます。大学生活を想像してドキドキしている人も多いかと思いますが、本当の早稲田大学の雰囲気を感じたいのならこの本がおすすめです。
伝統の早稲田祭や百キロメートルハイクをはじめとした朝井リョウさん自身の大学生ライフが、おもしろおかしく描かれた一冊です。授業をサボって京都まで遙か五百キロメートル、自転車を爆走させる人がどこにいますか？
いえいえ、早稲田大学にはそんなちよつとずれた面白い人がたくさんいますよ。あなたも「早稲田生もこんなものか（笑）」と、肩の力を抜いて入学して来られるはずです。楽しくて、たまに大変で、おバカで愛おしい大学生活が待っていますよ！



PROFILE

早稲田大学文化構想学部出身の作家。在学中の2009年に『桐島、部活やめるってよ』で、第22回小説すばる新人賞を受賞し作家デビュー。現役大学生作家として注目される。2013年に『何者』で第148回直木賞を受賞し初の平成生まれの受賞者となった。

戸山図書館 3F学習図書 914.6 788
教育学部学生読書室 一般和書 914.6 ア

『サクラ咲く』（光文社文庫）

辻村深月

この本は、進研ゼミ中学講座で連載されていた二つの小説を含む、三編の傑作集です。『約束の場所』は、約束の時間。『サクラ咲く』は、中学一年生に向けて。『世界で一番美しい宝石』は、それらを踏まえ、た上で、かつて子どもだった“大人”に向けて書かれたものです。希望、絶望、戸惑い、未来。透き通ったあの時間を、戻ってこないあの頃を、もう一度体験してみませんか。

学校はみんなのもの、なんていうのは大嘘だ。学校は、俺たちじゃない、何のてらいもなく“青春”を謳歌できる“彼ら”のものだ。だってことを、俺は知っている。でも、本やアニメや映画に支えられて生きてきた俺たちの学生時代が、学校での現実だけを生きる彼らの青春よりも尊いと思ってしまう。俺たちの学校は、学校の主役に躍り出たいと考えるのは、いけないことだろうか。学校は、誰のものだ？



PROFILE

千葉大学教育学部出身の作家。2004年『冷たい校舎の時は止まる』で第31回メフィスト賞を受賞しデビュー。2012年『鍵のない夢を見る』で第147回直木賞を受賞。若者が感じる息苦しさを透明感のある筆致で描き出したミステリーを多く発表。幅広い読者からの熱い支持を得ている。



春
Spring



『The Pillow Book』（Columbia University Press）

Sei Shonagon Translated by Ivan Morris

The Pillow Book, which was completed around in 1000, is said to be the oldest essay written in Japanese. Along with *The Tale of Genji*, it is praised as a masterpiece which illustrates the Heian dynasty culture. The biggest difference between the two works is that *The Tale of Genji* is, as its title suggests, a tale, while *The Pillow Book* is an essay. The former depicts the aristocracy by portraying the life and romance of the characters, and the latter conveys to us the author's own experience at the court.

In *The Pillow Book*, Sei Shonagon observes people's lives, nature, and society with her keen eyes. This book consists of about 300 chapters, and you can feel her rich sensibility from every word.



(※)

PROFILE

Sei Shonagon is a female writer in the mid-Heian period (10c-11c). Dates of birth and death and her real name are unknown. She was the daughter of a noted poet, Kiyohara no Motosuke, who also worked as a provincial official. She and Murasaki-Shikibu are admired as great writers of the period.

中央図書館 B2研究図書 F914.3 00004 1
F914.3 00004 2

『夜のピクニック』（新潮文庫）

恩田 陸

主人公たちの目に映る風景や心理描写から一日の時間がとても長く、豊かに感じられる作品です。主人公だけでなく、一緒に歩く友人たちの高校生ならではの悩みや思いや不安定な心情が、歩行祭というイベントを過ごす中で明かされ、変化していく様子が非常に綿密かつ爽やかに描かれています。『高校最後』の行事独特の、寂しさと不安と期待の入り混じった心情や、夏から秋に移っていく季節の一日の情景が浮かびあがり、高校時代の特別な一日を思い出させてくれる一冊です。

高校生活最後のイベント「歩行祭」。その中で主人公の貴子は、自分自身と密かに「賭け」をしていた「歩行祭」というイベントの中での、貴子とある男子生徒の心情やその変化が描かれた作品。二人の視点で物語が進み、主人公たちの心情と感じている時間がゆつくりと流れるように描かれています。



PROFILE

早稲田大学教育学部出身の作家。1992年に日本ファンタジーノベル大賞の最終候補作となった『六番目の小夜子』でデビュー。『ユージュニア』『中庭の出来事』など受賞作多数。2017年に『蜜蜂と遠雷』で直木賞を受賞。SF・ホラー・ミステリーなど様々なタイプの小説を執筆している。

中央図書館 2F一般図書 一般・新潮文庫 お-48-6
法学部学生読書室 文庫・新書 新潮文庫 お-48-6 ほか



夏
Summer



『一瞬の風になれ』（講談社）

佐藤多佳子

二〇〇七年に本屋大賞、吉川英治文学新人賞を受賞した、全三部作からなる青春陸上小説。走ることを通して成長していく高校生の姿が、瑞々しいタッチで描かれています。読むだけで、新二や連と共に走り抜けているような風を感じることのできる作品です。三部作と聞くと長く感じるかもしれませんが、駆け抜けるような疾走感と爽快感を味わいたい夏にこそ、是非読んでほしい作品です。きつと、読み終わったときには短かったと感じるはず。

スター選手である兄への複雑な思いからサッカーを諦めた神谷新二は、春野台高校入学後、同級生である根岸の勧めにより、陸上部への入部を決意する。共に入部したのは、中学時代に短距離で全国七位の成績を誇ったにも関わらず、陸上を辞めてしまった幼馴染、一ノ瀬連。その背中を追いかけて、ひとまず走った先に新二が見た世界とは。



PROFILE

青山学院大学文学部出身の作家。1989年に『サマータイム』で月刊MOE童話大賞を受賞し、小説家デビュー。以来、児童文学・童話から一般小説まで幅広い活動をしている。他著書に『黄色い目の魚』『第二音楽室』などがある。

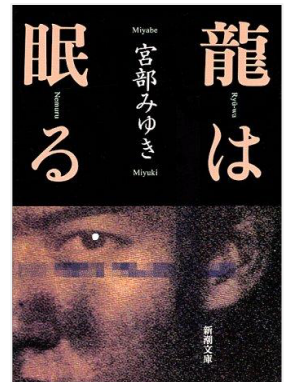
<単行本> 戸山図書館 3F学習図書 913.6 サ014 01~03
<文庫本> 戸山図書館 1F学習(文庫) 080 B015 41:01~03 ほか

『龍は眠る』（新潮文庫）

宮部みゆき

青年の描写に定評のある著者の初期の作品の一つ。快活そうでいて深い孤独を抱える慎司のキャラクターと、保護者のようで友人のような高坂との交流の様子、二人が巻き込まれていく事件の顛末に注目です。

九月のある大雨の夜、語り手の「私」高坂昭吾は稲村慎司という少年に出会う。仕事の用でたまに通りかかった高坂が、たまたま自転車をパンクさせて途方に暮れていた慎司を家に送り届ける。偶然の出会いには、ただそれだけで終わるはずだった。その日の大雨の中、幼い子供が行方不明にならなければ。そして、その事件に二人が巻き込まれなければ。慎司と交流が深まっていく中で、高坂は彼の「秘密」を知る。慎司の持つという超能力「ESP」について。そして、慎司が心に抱える闇と、慎司の無二の親友、もう一人のESP少年の存在について。



PROFILE

東京生まれの作家。1987年に『われらが隣人の犯罪』でオール讀物推理小説新人賞を受賞してデビュー。『魔術はささやく』『今夜は眠れない』『模倣犯』などの多くの名小説を生んできた。本書は1992年に日本推理作家協会賞を受賞。

法学部学生読書室 文庫・新書 新潮文庫 み-22-4



秋
Autumn



『植物の形には意味がある』（ベレ出版）

園池公毅

読書の秋。色づく木々を眺めつつ、ちよつぱり理系の世界を覗いてみるのはいかがでしょうか。あなたは、なぜ植物の葉や、根や、茎が、あの形をしているのか考えたことはありますか。なぜ池の中の水草と、サクラと、トウモロコシの葉はあんなに形が違ふのでしょうか。なぜ植物は綺麗な花をつけ、果実を実らせるのでしょうか。あまり理系のテーマになじみのない人でもスムーズに読むことができるやさしい語り口で、植物の形の「意味」に想像を広げる新たな視点を切り開いていきます。ちなみにこの本を書いたのは、われらが早稲田大学の教授です。早稲田大学には様々な学問分野の専門家がたくさんいます。出会った本から授業を聴講してみたり、反対に授業から興味のある本を読んだりすること、新たな自分の興味を発見できるかもしれませんよ。



PROFILE

早稲田大学教育学部理学科教授。専門は植物生理学。東京女子医大との共同研究施設であるTWINsで、主に光合成についての研究を行っている。研究室のHP「光合成の森」でも一般に向けたわかりやすい光合成の紹介がなされている。

<http://www.photosynthesis.jp/>

中央図書館 3F一般図書 471ソ
教育学部学生読書室 一般和書 471.1ソ

全国大学ビブリオバトル予選会 単稲田大学

様々なイベントを開催している早稲田大学中央図書館。
今回は昨年開催された「全国大学ビブリオバトル予選会 単稲田大学」をご紹介します！

そもそも ビブリオバトルって？

ビブリオバトル（書評合戦）は、誰でも楽しめる本のプレゼンゲーム。新たなコミュニケーションの手段としても注目され、日本全国に広がっています。
ルールはいたってシンプル。本の紹介で用意するのも、本とカウントダウンタイマーだけ。あとは、ライブで本について語るのです！紹介する方も、聴いている方も双方が楽しめます！

<ビブリオバトル 公式ルール>

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

※詳細は公式ホームページを参照
<http://www.bibliobattle.jp/>



パトラーになりきる早稲田ベアー
使える武器は言葉のみ！

全国大学ビブリオバトルと 予選会 単稲田

ビブリオバトル発祥の地・京都大学で本戦が行われた二〇一六年全国大学ビブリオバトル。決勝ステージはニコニコ生放送で中継されました。

予選会は各地で開催され、勝ち抜いたパトラー（本の紹介者）は、地区代表決定戦への切符を手に入れます。早稲田大学中央図書館でも「全国大学ビブリオバトル予選会 単稲田大学」と銘打って、昨年二〇一六年十月五日、十二日の二日間、わたって開催されました。投票の結果、十月五日は中村朱里さん（教育学部一年）が紹介した『メ切本』（左右社編集部編）、十二日は宇田糸織さん（基幹理工学研究科修士一年）が紹介した『死ねばいいのに』（京極夏彦著）がチャンプ本となりました！

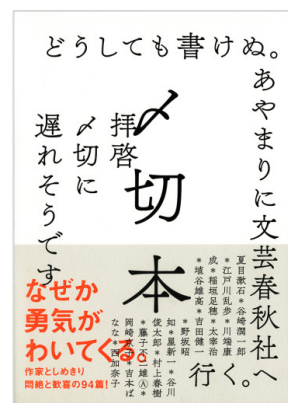
チャンプ本『メ切本』 発表内容をご紹介します！

皆さんには八月三十一日に泣きながら宿題をやった経験はありませんか。そんな日のことを思い出させる『メ切本』を今日は紹介いたします。

この本はまるで夏休み最終日を迎えた小学生のごとき九十人の作家たちによる、メ切にまつわるエッセイ、手紙、日記、謝罪文などを詰め込んだ本です。「今夜、やる。今夜こそ、やる」、「用もないのに、ふと気が付くと便所の中へ這入っている」、「おたくのFAXこわれていませんか」、「殺してください」などと、メ切前に駄々を捏ねる様子は面白く、編集者に対する上手い言い訳は、今後の自分のためになります。



2016年10月5日予選会in早稲田
パトラー集合写真



左右社 左右社編集部編

この本はどのページから読んでも面白いのですが、私は前から順番に読むことをおすすめします。なぜかというところ、この本の構成によって、メ切は私たちの敵ではないということ、人生とはメ切であることに気がつけるからです。あれほどまでに私を追い詰めたはずなのに、いつのまにか叱咤激励してくれていたメ切。思考の最大原動力になっていたメ切。メ切があつたから終わらせることができた。メ切がいたから、がんばれたんです。

そして、人生はまたメ切なんです。私たちは死というメ切に追われて生きています。それは苦しいことかもしれない。けれども、メ切があるから、やりたいことをやろうと思える。色々なことを考えつづける。メ切は私たちの味方であり、人生なのです。

今、何かのメ切に追われている人も、そうでない人も、読んでいくうちにメ切に感謝したくなるかもしれない。そんな一冊です。

演劇・映画の世界にふれよう



演劇博物館閲覧室



早稲田のキャンパスでもひととき存在感を放つ建物、演劇博物館（通称：エンパク）。

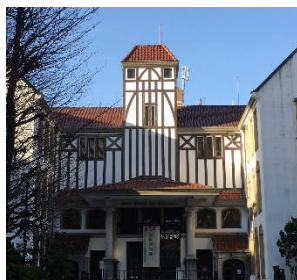
今回はそのエンパクにある2つの「閲覧室」についてご紹介します！！



5号館1階 和書閲覧室

エンパク閲覧室があるのは、五号館の博物館本館一階と隣の六号館三階。五号館は「和書閲覧室」、六号館は「貴重書・外国語図書閲覧室」と分かれていて、それぞれ豊富な図書資料がそろっています。

エンパク閲覧室の魅力

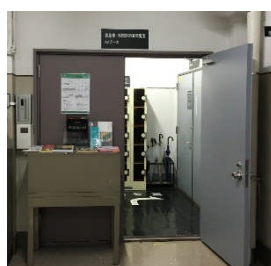


5号館外観

開館時間：10:00～17:00
(火・金曜日は19:00まで)
※大学の臨時休業日は休館
※入館料 無料

演劇博物館ってなに？
演劇博物館（坪内博士記念演劇博物館）は、一九二八年（昭和三年）に設立された、アジアで唯一の演劇・映像専門の博物館。日本や外国の演劇に関する資料はもちろん、国内外の映画やドラマ、伝統芸能などに関わるさまざまな資料を所蔵・展示しています。その資料数はなんと約百万点にも及びます。
エンパクがあるのは、早稲田キャンパス（本キャン）内、十六世紀イギリスの劇場である「フォーチュン座」を模して設計されたその建物は、新宿区有形文化財にも指定され、本キャンでも独特の雰囲気をはなっています。

- 資料の利用**
エンパク閲覧室の特徴は、開架式になっていること。ここではその利用方法を簡単に紹介します（詳細はホームページや館内案内をご覧ください）。
- (1) 「WINE」や「演劇博物館デジタルアーカイブコレクション」で検索。
 - (2) 各閲覧室にある「閲覧申請書」に情報を記入。
 - (3) 身分証を添えて受付で申込み、希望資料を取り出してもらう。
 - (4) 閲覧室内で閲覧。
 - (5) 受付に資料を返却し、身分証を受け取る。



6号館3階
貴重書・外国語図書閲覧室

演劇や伝統芸能に関するもの、寄贈された貴重なもの、電子・映像資料や、誰もが知るドラマや映画の台本まで、幅広い資料が取り扱われていて、その数は合わせて約二六万冊！
本格的に研究したい人はもちろん、ちよつと気になて、その世界にふれてみてください。

閲覧室の中をくわしく紹介！！

5号館1階 和書閲覧室

明治期以降に出版された日本語の図書および雑誌（台本を含む）を所蔵しています。能・歌舞伎・文楽等の伝統芸能から国内外の演劇全般とその周辺分野（映画、舞踊、音楽、民俗芸能）まで多岐にわたり収集しており、映画・TV・ラジオ等の台本も数多く含まれていて閲覧が可能です。

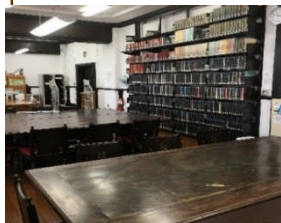
開架書架には、利用の多い図書、参考図書、雑誌などがありますが、これらは全体のごく一部。利用したい資料がない時は閉架書架へ。



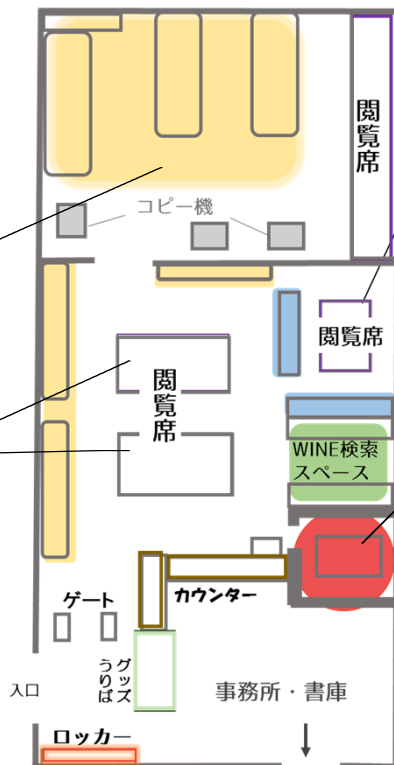
レファレンスブックなど

開架書架・閲覧席

映画雑誌・参考書など



趣のある雰囲気のある室内。ゆったりした気分で閲覧できます。閲覧席は一部PC利用も可能。



大型図書コーナー

大型の開架図書のコーナー。すぐ横に閲覧席があるので、重い本でも安心して閲覧できます。窓が近く落ち着いた閲覧スペースです。

特別閲覧コーナー

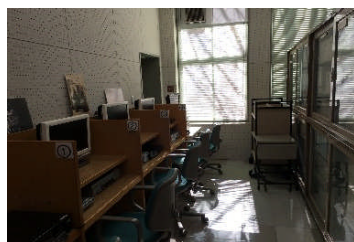
特に貴重な資料は、特別閲覧コーナー内でのみ閲覧できます。入口前の棚には紙目録が置いてあり、WINEで検索できない資料情報を探すことができます。閲覧申請書と一緒に置かれているので、閉架書架の資料を利用する時は記入を忘れずに。



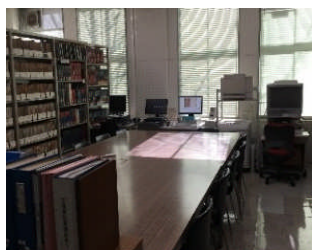
閲覧申請書

6号館3階 貴重書・外国語図書閲覧室

外国の演劇や映画、戯曲や舞踊に関する外国語資料だけでなく、江戸期以前の資料など貴重資料も利用できます。電子化された資料を閲覧できる専用PCが設置されていて、エンパクでしかみられない貴重な資料を見ることも可能です。

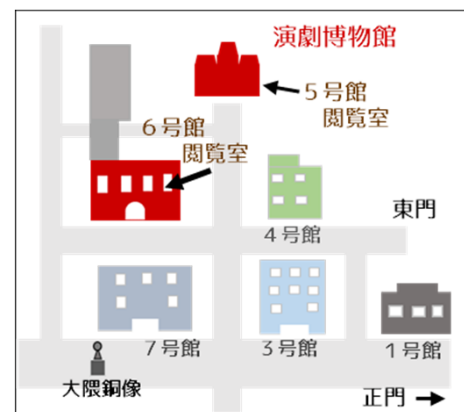


AVブース



閲覧席・専用PC など

6号館閲覧室には、AVブースも設置されています。歌舞伎や能などの芸能から民俗芸能、演劇・映画などさまざまな映像・音声資料を視聴することができます。



周辺MAP

閲覧室基本情報

- ・場所：早稲田キャンパス
- ・利用：学内外問わず誰でも利用可能（要身分証）
- ・貸出：学部生は閲覧・複製のみ可（貸出不可）。教職員・大学院生は貸出可。
- ・開室時間：* 各日十二時半～十三時半は資料の返却のみ受付

【五号館一階（和書）】

- 月・水・木・土・日 十時～十七時（閲覧申請は十六時四十五分まで）
- 火・金 十時～十九時（閲覧申請は十八時四十五分まで）

【六号館三階（貴重書・外国語図書）】

- 月・金 十時～十七時（閲覧申請は十六時四十五分まで）
- 土・日・祝は閉室

★お知らせ★

演劇博物館は今年二〇一七年八月七日から長期休館となります。

閲覧室も休館となります。休館に関する詳細は演劇博物館ホームページでご確認ください。

く博り年
ださい。



図書館 小瀬

toshokan
kobanashi

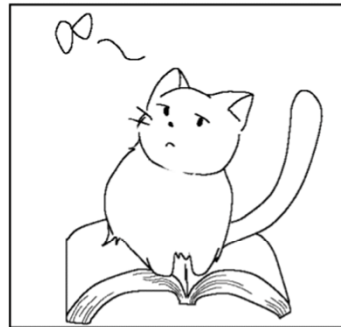
図書館へようこそ

みなさん
こんにちは
このページの
担当者です
図書館について
少しご紹介します

図書館では
本を読んだり
勉強したりできます
周りの方のために
おしゃべりは控えめで...



あかんわ



読んでくれてありがとう

本は貸出期間が二週間
申請すれば
延長もできます
返却期限を
過ぎると
反則点がたまり
しばらく本を借りられなくなるので
気をつけてね

図書館 ええとこやで

貴重な本 オモロイ本 たくさんあります



返却期限を過ぎた場合、
一日ごとに一冊につき
1点ずつ反則点が記録され、
50点に達すると
以後二週間本を借りることが
できなくなります。



早稲田大学図書館 ボランティアスタッフ LIVS 活動紹介

Waseda University Library Volunteer Staff



LIVS（リブス）とは、2013年度に活動をスタートした早稲田大学図書館公認のボランティア団体です。貸出や配架などの業務ではなく、学生にとって魅力的な図書館を目指して、学生視点でのイベント企画や広報などの活動を中心にしています。活動場所は早稲田キャンパス中央図書館です。ここでは、そんなLIVSの活動をご紹介します！

2016年度の活動

「りぶまぐ！」発行

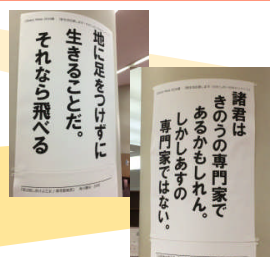


編集会議の様子



「りぶまぐ！」を初発行！
LIVSメンバーおすすめの本や
図書館に関する情報などを掲載。
本が好きで図書館をよく利用す
る学生から、普段あまり本に接
していない学生まで、より多く
の人に手に取って楽しんでもら
えるよう、力を合わせて作り上
げました！

新生活応援します！ 「わたしの一行キャンペーン」展示



4～5月にかけて、LIVSメンバーが選
定した「わたしの一行」を館内の柱
という柱に掲示。同時にTwitterによ
る一般公募も行い、併せて掲示しま
した。新入生を歓迎する一行が図書
館一面に並び、多くの方に足を止め
ていただきました！！

「#文庫川柳」展示

皆さんはご存知でしょうか？
ネットで話題になった背表紙を
使った「文庫川柳」にLIVSも
チャレンジ！8月のオープン
キャンパスで図書館を訪れる高
校生を意識した作品が並び展示
になりました。



「こんな本があったんだ！」展示

読書の秋、そして9月入学の方を意識して「面白いタイトルの
本」と「東京」の2つのテーマで、LIVSメンバーおすすめの
本の展示。中央図書館の2階エントランス前に、メンバーの熱
い思いの詰まった紹介文とともに様々な本が並びました！

※右の写真はツボ押し図ではありません（笑）
あしあとシール図にしたかったのですが…

Web連載「地下書庫探検隊！」



内容はこちらから
→→→



2015年実施企画の第二弾！古く貴重
な資料がある中央図書館の地下書庫。
ここを中心に、各自が好きなテーマを
調べた記事を、図書館活用事例として
公開する連載企画です。図書館のより
「深い」使い方を自分たちも学びなが
ら、皆さんにお伝えすることを意識し
ています！現在も公開中です！！

そして2017年度へ…

2017年4月10日～14日開催のLibrary Weekでは、
LIVSが以下の企画を実施します！お楽しみに！！

「りぶまぐ！」編集班

「りぶまぐ！」発行にご協力くださった方、
今手に取ってくださっている方、全ての皆様に
御礼申し上げます。

〈LIVSメンバー・担当ページ〉
弦間 沙羅・枝 かん菜（1～5）
中村 朱里（6）
大崎 千春（7・8）
吉開 理恵（9・表紙）
酒井 良輔・鶴澤 尚子（10）

〈職員（監修）〉
山下 修平、稲葉 直也

「新入生に贈る一行」展示

今年もLIVSが中央図書館をジャック！？LIVSメンバーが選ぶ「新入生に贈る一行」
を館内に掲出します！一行から始まる新たな本との出会いをお楽しみください。

「脱出ゲーム」



LIVS企画でもっとも反響が大きかった伝説のイ
ベントが帰ってくる…！
2014年に開催して毎日新聞にも掲載された「脱
出ゲーム」のダイジェスト版を4月に、待望の続
編を6月に実施予定！遂に物語が完結！？
乞うご期待！！





Presented by
Waseda University Library Volunteer Staff “LIVS”

『りぶまぐ!』 vol.2 2017年4月1日発行

編集・発行：早稲田大学図書館・図書館ボランティアスタッフLIVS

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学図書館 利用者支援課

TEL : 03-5286-1659

<http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/livs/>

※本誌掲載の写真、記事、図版等を無断で転載・模写することを禁じます

本PDFは、執筆者の許諾のうえ冊子版を電子化し、
「早稲田大学リポジトリ」より公開するものです。
また、本誌上で使用している書影等の著作物は、
すべて出版社からの許諾を得て掲載しています。
これらの無断転載・転用を禁じます。

早稲田大学図書館